

【新聞活用学習】全校／中学3年生・特別な教科 道徳

新聞の情報をもとに友と学びを深めていく生徒の育成のために

指定校2年次 中野市立中野平中学校 三井 由美子 坂口 裕晃

（1）本年度のNIE活動の概要

昨年度当初は、今起きている出来事や情報について知らない、興味がないなど、日頃からニュースや新聞に親しんでいる生徒が少ない実態であった。指定校1年目の令和2年度は、新聞に親しむ機会をなるべく多くとり、身近に新聞があるという環境作りから始めた。

令和3年度は、生徒たちだけでなく、職員室にさまざまな新聞を置いて、教師も新聞に親しめるよう配慮した。また、信濃毎日新聞データベースを利用できる環境を整え、新聞記事が身近にある環境とした。その結果、新聞を教材に授業をする教師が増え、教室内の新聞を手に取り読む生徒が増えてきた。さらに、学習場面で新聞をどう活用できるのかを学校全体で共有してきた。このような実践を通して、見えてきた成果、課題を共有し、今後新聞がどのような学習場面で有効であるかを考えていきたい。

（2）本年度のNIE活動の取り組み状況

本校は全校生徒337名、15学級である。何年も前から本校では地域の新聞店のご厚意により、全校の各クラスに毎日1部ずつ新聞が配付されている。担任は、朝や帰りの学活等で新聞記事を紹介したり、生徒たちに関係する新聞記事を取り上げ、問題提起したりしてきた。その結果、担任の机にある新聞を開いて読む生徒が増えてきた。また以前より図書館前の廊下には、新聞コーナーが設けられている。新聞閲覧台に当日の新聞が掲示され、机にも新聞が置かれている。図書館周辺は新聞が読める環境が整えられている。

教科学習面では、国語科で家庭学習の課題として新聞を活用したほか、総合的な学習のジェンダー問題について考えさせる場面で新聞を活用し、各教科で新聞を活用した授業を実践してきた。このような取り組みの結果、生徒も教師も新聞を身近に感じるようになってきている。

（3）NIE活動の狙い

本校の全校研究テーマは「自ら求めて、友とともに意欲的に学び合う生徒」である。また、「協同的な学び」を推進している学校である。NIE活動を通して、「新聞の情報をもとに友と学びを深めていく生徒の育成」を目指してきている。学び合いにおける課題・題材はさまざまなものがあるが、NIEの活動では課題・題材を新聞からの情報とする。学ぶ価値のある、高いレベルの課題・題材は生徒たちの学ぶ意欲と関係してくる。既習事項と関連した生徒たちにとって魅力的で夢中になって学べる新聞記事が必要となる。一人一人の生徒は教材(新聞記事)と出会い、「対話」し、自分なりの意味世界を構築する(教材との対話)。次に、その考えを足場に、他者と言葉や物を媒介した「対話」を通して、対人関係を築いたり修復したり、協同で探究したりする「他者との対話」を通して各自が確かな意味世界を再構築する。今後も新聞を使った授業を通してこのような学びを期待したい。

(4) 全校での取り組み

<図書館における取り組み>

図書館入口には、新聞コーナーが設置され、Asahi Weekly（英語の新聞）、朝日中高生新聞、北信ローカル（地域の情報が得られる新聞）の他、読売、朝日、毎日、信濃毎日新聞が自由に読めるスペースが設けられている。また、新聞閲覧台（信濃毎日新聞新聞販売店から提供された）があり、当日の信濃毎日新聞が読めるようになっている。廊下を通った生徒たちが自由に気軽に新聞を読める環境が整っていることもあり、休み時間に新聞を手にとって読む生徒が増えてきている。

<家庭学習における「斜面」の活用>

国語科は、1日1ページの家庭学習（漢字提出ノート）の充実を図る取り組みとして週末に「書く」課題を出すようにした。新聞コラムの視写を通して読み書きの力を伸ばし、社会への関心を高めるきっかけの一つになるのではと考えている。週に1回、2つずつ無料配信コラムを印刷・配付し、生徒はノート3ページ（金、土、日曜日分）に書いてくる。視写で3ページがほぼ埋まるが、視写の後にコラム中の語句を調べる、漢字を練習する、感想や意見を書くなど各自が工夫して取り組んでいる姿がみられる。

今後はコラムで読解の力を伸ばすことやコラムを自分の文章表現に生かすことも探っていきたい。話題や中心文をとらえ、要旨をまとめることで説明的文章の主張を読み取ることに繋がったり、気に入った言い回しを自分の文章に取り入れ、推敲することで書くことへの抵抗感が減ったりすることも期待して、教科内で取り組み方の検討や改善をしている。

【信濃毎日新聞 2021年9月9日付】

<3学年総合的な学習：SDGs:ジェンダー問題>

3学年の総合的な学習では、「2030年の中野市

『私たちのSDGs宣言』～私は何を？何ができる？』をテーマに8講座に分かれて学習を積み重ねてきた。

ジェンダー問題の講座では、現在のジェンダー問題について、新聞を使って情報を共有し、意見交換をした。まずは、制服の問題。県内の中学校では、男女にこだわらない制服のデザインを決めた長野日大中・高校についての記事やジェンダーレス制服を導入する白馬中学校の記事を紹介した。記事を読み、本校の制服についての意見交換をした。本校は女子がセーラー服、男子が学ランであることについて、「着たくなくても着させられている人がいるかもしれない」という意見が出された。

また、入試でもジェンダー問題が起こっている事実を紹介した。都立高校の入試では、男女別の定員が設けられており、廃止を求めて署名運動が起こっている記事を読んだ。男女別の定員に設定していることで、合格最低点が異なり、ほとんどの高校で女子生徒が不利になっている事実を知った。また長野県内でも、諏訪清陵高校附属中学校と屋代高校附属中学校で男女別に同数の定員を設けていたが、2022年度から廃止する方針が出されたという記事を読み、性差で受験時に有利、不利が生まれる恐れがあるということに、疑問を持つ生徒が多かった。新聞記事から、ジェンダー問題について現在議論されていることについて知り、自分の意見を



持つことができた。ジェンダーフリーの考え方の広まりも感じられる授業となった。

本講座の生徒たちは、全校でピンクのマスクをつけてジェンダーフリーを意識するという活動を提案し、11月中に3回行った。その活動が生徒から保護者に伝わり、保護者の職場でもぜひ行いたいという申し出があった。さらに、ピンクマスク運動を行った会社の方と生徒との意見交換会が行われ、貴重な時間となった。自分たちの行動が社会へ広がっていくことを実感することができた。その内容は12月23日信濃毎日新聞北信版で取り上げていただいた。

<社会科の授業での新聞記事の活用>

社会科では地理・公民の授業で新聞記事を活用した。身近な問題としてより深く考える資料として、以下のような新聞記事を使用した。

- 1年生：地理「世界の諸地域」 ヨーロッパ
イギリスがEU離脱を決定した記事
- 3年生：公民「現代の民主政治」選挙の意義と仕組み
衆議院選挙の結果を報じた記事
- 3年生：公民「私たちの暮らしと経済」株式会社の仕組み
株価の変動について学習する中で、株式市況欄

上記の内容以外でも新聞記事を使用した授業を試みた。すると、普段新聞に触れていない1年生では、新聞記事の読み取りに苦労する場面が見受けられたが、3年生は昨年度1年間授業の中で新聞記事を扱いながら行っていたため、スムーズに読み取りを行うことができていた。

教科の内容をより発展的に学ぶために、私たちを取り巻く様々な社会情勢や地球的課題を知るための資料として新聞記事を活用したことは有効だった。特に3年生は、変化が激しい国際情勢（中東やウクライナ、ロシア問題）などに関心を持ち、学校だけではなく各家庭でもニュースや新聞記事に目を通す機会が増えたと話している。

本年度から本校は、1人に1台のタブレット使用が始まった。昨年度までは新聞記事を生徒数分コピーし配付していたが、今年度からは紙面をタブレット上で配付できた。ペーパーレス化の実践となり、また、紙面を生徒自身が自由に拡大することができるため、昨年度よりも新聞記事が見やすくなったと感じた。今後も社会科では新聞記事を活用しながら授業デザインを考えていきたいと思う。

(5) 公開授業などの活動内容

特別な教科道徳 授業デザイン (令和4年11月15日実施)

授業者 中野市立中野平中学校 坂口裕晃

1 授業学級 3年2組

2 単元名 「大坂選手からのメッセージ」

3 内容項目

公正・公平・正義、差別・偏見のない社会

(11) 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

単元名	内容
1. ぼくの物語 あなたの物語	黒人作家ジュリアス・レスターの人種差別問題についてのメッセージを通して、差別や偏見のない社会を築くために大切な心について考えさせ、公正、公平で、社会正義に基づいた行動を取っていかうとする判断力を育てる。
2. I Have a Dream	キング牧師の歩んできた道のりと、演説を通して、差別に屈せず、立ち向かう姿勢とキング牧師の思いについて考えさせ、社会正義に基づいた行動を取っていかうとする判断力を育てる。
3. 大坂選手からのメッセージ (本時)	

4 本時のねらい (主眼)

プロテニスプレイヤーの大坂なおみ選手の行動について考え、BLM 運動に関する新聞記事を読み、この問題の背景にある様々な「対立」について考えることを通して、人権差別問題の解決のために必要なことについて自分なりの考えを持つことができる。

5 授業の構想

発問①

この大坂選手の行動に対してどう思いますか？

発問②

誰と誰、何と何が対立をしているのだろう。理由も合わせて考えよう。

中心発問③

誰と誰、何と何が対立をしているのだろう。理由も合わせて考えよう。

6 本時における教師の願い・教材の価値

本資料は、アスリートとしての最高のパフォーマンスを持ちながら、人種差別に反対する意見を積極的に発信し続けている、プロテニス選手の大坂なおみ選手 (以降大坂選手) の新聞記事を取り上げている。2020年5月末。アメリカの白人警察官が黒人であるジ

ジョージ・フロイド氏を暴力行為によって殺害した事件以降、大坂選手は人種差別に反対する運動「Black Lives Matter（ブラック・ライヴズ・マター：黒人の命は大事だ）」（以降BLM運動）を支持表明した。その後、テニスの全米オープンに臨んだ大坂選手は、ジョージ・フロイド氏と、過去に黒人差別にまつわる不幸な事件で亡くなった黒人の名前がプリントされたマスクを決勝までの7試合で7枚を着用し、毎試合入退場を繰り返した。その姿から、世界中の人々がBLMについて議論を始めるきっかけとなった。

本時では、新聞記事の「異なる価値観 対立する懸念も」という小見出しを使い、対立する価値観を考えさせたい。大坂選手の行動により、BLM運動の背景には、失われた尊い命が存在することに日本人が気付くきっかけとなった。この言動をポジティブに受け止める一方、BLMを否定的に考える人がいること、黒人差別の問題の歴史は深く、現代社会でも人種差別を解消する困難さがあること、スポーツの場において行われるBLM運動には疑問の声があること、大坂選手の戦いは黒人女性の戦いでもあり、ジェンダー平等などの問題とも深く関わっていることなどに気付かせたい。そして、本時で考えた価値観や意見を共有すること、互いに議論することが差別を解消する大きな一歩であり、それこそが大坂選手の伝えなかったメッセージであることを知ってほしい。さらに本時の授業を通して、差別問題解消のためにどんなことが必要なのか自分なりの答えを考えて欲しい。

〈授業展開〉

導入	<p>突然ですが、この人を知っていますか？</p> <p>大坂選手といえば・・・？</p> <p>【学習課題：差別や偏見をなくすためには？～大坂選手のメッセージから考えよう～】</p>
展開	<p>新聞記事配布①</p> <p>【①発問】</p> <p>この大坂選手の行動に対してどう思いますか？</p> <p>【②発問】</p> <p>誰と誰、何と何が対立をしているのだろう。理由も合わせて考えよう。</p> <p>新聞記事配布② 記事をさらに読み進める。</p> <p>【③中心発問】</p> <p>誰と誰、何と何が対立をしているのだろう。理由も合わせて考えよう。</p>
まとめ	<p>【まとめ】</p> <p>あなたは大坂選手のメッセージを、どう受けとめ、何を考えましたか？</p>

選手に広がる自由な言動

大坂 マスクで差別に抗議

【本紙記者の取材】
 マスクを被った大坂なお花選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。大坂選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。大坂選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。

社会的メッセージに強い影響力



大坂なお花選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。大坂選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。

異なる価値観 対立する懸念も
 大坂選手のマスク着用は、選手に自由な言動が広がることを訴えた。大坂選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。大坂選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。

大坂選手のマスク着用は、選手に自由な言動が広がることを訴えた。大坂選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。大坂選手は、東京オリンピック開幕式で、選手に自由な言動が広がることを訴えた。

7 成果と課題

- ・3年生の特別な教科道徳で、「大坂選手からのメッセージ」を主題として授業を展開した。中心発問では新聞記事の小見出しにある「異なる価値観 対立する懸念も」に着目し「対立」について考えさせた。多くの生徒は授業者が想定する以上の考えを持ち、新聞記事の情報や仲間からの気付きによって、自分自身の考えをさらに深める姿があった。しかし班によっては新聞記事からしか読み取れず、対立には様々な背景や価値観が関わっていることに気付くことが遅れた班もあった。生徒の考えが深まったタイミングで、一度全体共有をしても良かったと考える。また、「なぜそのように考えたのか」「新聞記事のどこから読み取ったのか」など生徒の考えに対して問い返すことができれば、生徒の考え方が広がったと思う。
- ・グループ活動をさせるタイミングや学級全体で共有するタイミングなど、生徒の様子に応じて弾力的に展開することが必要だと感じた。
- ・新聞記事から、多様な価値観があることを知り、授業の終末では自分事として考える生徒がいた。新聞記事を使った授業を展開することで、生徒の思考が深まることを体感することができた。今後も様々な教科で積極的に新聞記事を活用していきたいと思う。
- ・特別な教科道徳に限らず、生徒が考えた意見に対して「なぜ」「どのように」「だれが」などの問いを返すことで生徒との対話を大切にする授業を今後も展開したい。